

令和5年度第3回千葉県文化芸術推進懇談会 開催結果

- 1 日時 令和6年1月26日(金) 午後1時から2時50分まで
- 2 場所 ホテルプラザ菜の花 4階会議室「楨」
- 3 出席委員 (委員総数11名中9名出席、座長・副座長以下50音順)
草加座長、石橋副座長、植田委員、卯月委員、垣内委員、こまちだ委員、
佐々木委員、椎名(誠)委員、辻委員

4 会議次第

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 議 事「次期文化芸術推進計画の策定について」
 - (1) 取組の方向性について
 - (2) 県民への意識調査について
 - (3) その他
- 4 閉 会

5 議事概要

(1) 取組の方向性について

資料1により事務局から説明し、その後各委員による意見交換を行った。

<意見交換概要>

【委員】

16ページの「視点」について、「環境づくり、人づくり、地域づくり」となっているが、「人づくり」に教育ということがもう少し入ってきて良いのではないか。

前回もお話ししたと思うが、千葉県は図画工作、美術の先生が足りない。

それによって、専門家派遣ということで、私自身も今年度は小学校2校に派遣されている。

前回懇談会と今回懇談会の間、小学校への派遣とは別で、千葉大学の教育学部の学生(将来小学校の先生になる学生たち)に図画工作を教えた。

私が学生たちと接したのは4回ほどだったが、大学のカリキュラムとしてはたった8回の図画工作の授業である。それで彼らは現場に入る。

文化施策というふうにしたとしても、そういう現実を目の当たりにすると、

根本の部分がまだまだ足りないのではないかと思った。

それは児童に対してもそうだし、教師に対してもそうなのではないかなと。

だからこそ、この施策の中に人づくりの教育というところも、もう少し強めに入れても良いのではないかと思った。

【座長】

「人づくり」の「人」とはどういう人なのかということがもう少し具体的にわかると良いのではないかと。

「後継者育成」と言われると、その分野の後継者だなとわかる。

この「人づくり」の中には、オピニオンリーダーだったり、ファシリテーターだったり、アドバイザーだったりということも含まれてるのかもしれないので、どういう人材、どういう「人」が求められてるのか、それがもう少しわかる説明があるとよい。

そのことも踏まえて、皆さんの方では御意見いただければと思うが。

【委員】

12ページの視点のところ、3つの視点があり、その上には目指す姿ということで総合計画、いわゆる上位計画という形に基づいている。

この視点の文言については特に異論はないと思っている。また、今、人づくりの意味合いという発言もあった。

この3つの視点は、ある意味基本理念なのかなと考えている。例えば、「人づくり」でも、色々な意味合いがあると思っているし、一般的には、主体的に様々な人が繋がり、お互いを理解・尊重していくことで活動を広げて、次世代を担う人材を育成すると。一般的にはそういうことだと思っている。

そういった意味を含めると、例えば「地域づくり」がなぜ「連携づくり」や「社会づくり」ではないのかと。今後、施策の柱を考えていくにあたってそういったことを述べないためにも、この3つの視点の基本理念、次回の素案のところ示されるかもしれないが、今現在どういったことなのか、お分かりであれば、少し感想のようになってしまったが。

【事務局】

目指す姿に対して視点を3つ挙げており、基本理念という考え方もあるかと思うが、事務局としては目指す姿と施策の柱を繋ぐためのハブのような役割と考えている。

「地域づくり」が「連携づくり」や「社会づくり」という文言ではない理由については、人同士の連携や文化と他分野との連携が新たな文化芸術の価値や

それを認める社会を作り、最終的に地域づくりに繋がると考えているためである。

【委員】

非常にオーソドックスな枠組みで計画を立てていることは高く評価したいと思う。

今後議論していくことになるかもしれないが、今現在、全ての公共政策、例えば地方自治体の色々な計画も、地方自治体の財源・人的資源のみで行うという時代は遥か昔に終わっている。

そうすると、どういう形で文化芸術に興味・関心のある方々の協力を得るプラットフォームを作っていくのか。また、文化芸術に興味、関心のある企業や社会的なイノベーションを行うような、ソーシャルエンタープライズなどの方々の気持ちを集めていくとか、クラウドファンディング・ガバメントクラウドファンディングなど色々あると思うが、計画に基づく施策を行うための、この枠組みを支える基盤のような部分を書き込む計画が国でも自治体でも結構多いと思う。

国の委員会でも、どういう形で国民1人1人が、千葉県であれば県民1人1人がということになるだろうが、どういう形で地域のあり方や文化のあり方を考えてもらえるのかという枠組み作り、呼び込むための仕掛けみたいな方に力を入れているように感じている。

また、施策を行う上で、政府が直接やることがあまり効果的でない場合もあることに留意したい。細かなニーズに 대응するというところでは、政府よりも民間など他の方にやってもらった方がより効果的なものもあると思う。NPOがまさにそうだが、そういうところをどう計画に入れ込むのかというところが少し気になった。全体はいいと思うが、この施策を支えるベースをどうするのか。

もう1点、PDCAサイクルをどう回すか。施策の柱と連動して推進体制や評価方法が記載されることが最近のトレンドのようだが、その辺りがあまり見えてこない感じがした。

人づくりもそうだが、特に地域づくり、施策の柱3の「新たな文化芸術の価値を創造できる」というところ。価値を創造することはコストがかかるが、その価値を例えば観光や福祉、教育など様々なところに使うのであれば、そこから何らかの負担をしていただくことが考えられる。

現状、国が言うほど文化と経済はうまく連携はしていないが、資源を回していくというところをどういうふう書き込むのか。この地域づくりの中で書くのだろうか。次期計画の考え方自体は非常に綺麗にまとまっているので、これとは別で「目指す姿」を「3つの視点」で効果を上げていくために、別途こうい

う素材、横串を刺すような体制やシステムをどう書くかというようなところがあまり見えて来ていない。

今日議論する点ではないのかもしれないが、スケジュールを考えたらここで一度議論していてもいいかなと思う。

いくつか面白いと思ったのは、県政世論調査の「オンラインで鑑賞している」鑑賞率。アニメや文芸作品など、オンラインでも鑑賞している人が4人に3人しかいないというのには驚いた。

電車に乗ると、乗客は全員スマホで何かやっているのを見る。76パーセントしかいないというのは何だろうなど。もっとこの数値は高いのではないかと、思ったが、1年間で、スマホで漫画も読まない、小説も読まない、映画やドラマを見ない人が4人に1人いるということで、数値として不思議な感じがした。

【座長】

確かに、鑑賞率が76.7%とあるが、逆をかえせば全く文化に触れない人が約24%いるのかと言われると、それはそれで不思議な気がする。

【委員】

今の話を受けて、全体としては、他の委員の方々の仰っているとおりよくまとめていただいているのかなと思うが、今の鑑賞率の話もそうだが、あまり具体が見えていないなというのが感想。

オンラインやテレビでも鑑賞しないと答えた人は、そもそも文化芸術が何かということを理解しないでアンケートに答えていると思われる。そういう意味ではアンケートを取る場合、もう少し人の特性をうまく把握していただけると、どういう人をターゲットに、どういう生活をしているのかというのが、見えてくるのかなと思った。

先ほど「人づくり」というところも、概念としてはすごくよくわかる。11ページに、「子供、若者から、子供を持つ保護者や高齢者、障害者、外国人などを包括してあらゆる人々と称してきた」というこの反省が、実はあまり生きていないというのが感想。

「人づくり」という文言で更に概念化されてしまっているような気がしている。先ほどの話と同じだが、千葉県にはどういうタイプの人っていて、その人々にどういう政策を付与していくのか。その辺がうまく整理できると、より良いのかなと思った次第。

同様に、この場で議論すべきことではないのかもしれないが、7ページの3番に、「他のジャンルとの交流を行っている団体の割合は前回より増えている」とあるが、中身の問題ではないかと思っている。どういう団体がどういう問題

を抱えているのか、こういったタイプの団体、あるいはどういう活動をしている団体が他のジャンルと交流をして上手くいってるのかなどという具体の部分と連動しつつ政策を決定していくともう少しわかりやすいのではないか。

ここでは全体を決めることなので、個々の話は今回違うのかもしれないが、上手くまとめていただいているが、具体が無いのでなかなか判断ができない。具体が見える形をどこかで御提示いただければと思った。

【座長】

私も少し誤解をしていたかもしれない。「人づくり」というのは、文化芸術に触れる人を増やしていこうということか。

私は、文化芸術を広く県民に伝える役割を担う人材を育てていこうということだと考えていたが、そうではなく、文化芸術の素養に溢れる県民を増やしていこうという意図ということか。

【事務局】

文化芸術に触れる人を増やすこと、文化芸術を担う人材を増やすことの両方の意味がある。

【委員】

16 ページの表を見ると子供、若者などに対し文化的素養でキャパシティビルディングをするということだと思う。

【座長】

後継者育成というのは、どちらかというと専門性のある職人を育てていこうということなので、「人」というのが単に芸術の才能がある人間を育てること、それを伝えるだけの人でもなく、芸術に触れて、豊かな心を持つ人間でもあるということか。承知した。

【委員】

アンケートの取り方についてお伺いしたい。

文化芸術の概念的なものがアンケートの回答者の理解と違っていたのか、例えばアンケートの取り方も、先ほどオンラインの鑑賞率の話も出たがそこまで高くない数字になっているわけで、それは多分、アンケートを取った県と回答者の間で文化芸術に対する基準がズレてしまっている気がする。

後の議題でアンケートの取り方が出るようだが、アンケートの前提として、文化芸術という概念的なものを、もう少し分かりやすくしておいた方が良く

思う。

私はいつもここで話しさせていただいているが、自分は文化芸術を語れる人間ではないとずっと思っていたが、そういう自分でさえも偶然、地域でお囃子に携わっており、それも文化芸術ですと言われてはじめて気づくという。

自分ではお囃子が文化芸術であるという自覚が全然なかった。多くの県民の方が同じように、文化芸術、特にこの芸術という言葉が出てきてしまうと、自分には関係ないと思ってしまう人が多いのではないかという気がする。

一番大事なのはわかりやすいということだと思うので、その辺をもう少し分かりやすく表現されていたら良いのではないか。

先ほど話もあったが、今後は民間や関係団体との連携も必要となってくる中で、概念のようなものもわかりやすくしっかりまとめられていた方が良いと思う。どれがということではないが、全体のイメージはそんな感じ。

NPOももちろん大事だが、もう少し裾野を広げて、もしくは民間の会社だとか、先ほど話に出てきていたが、そういう方たちも連携の中に加わってくるだろうから、そういうところを広く拾えるような方向性、計画ができていたらいいような気がする。

【事務局】

補足させていただくが、配布資料の参考4がある。県政に関する世論調査の報告書だが、質問の聞き方というところで、49ページの問15に鑑賞に関する設問が載っているが、「あなたはこの1年間に鑑賞しましたか」というところ、こちらで文化芸術の概念を示している。

映画、アニメ、文芸、漫画含むなど、そういう要素も入れているがこういった結果が出てるということなので、ここの概念の書き方というところをきちんと見ていただけていないのかという気もする。

委員からの御指摘があったので、ここの書き方も、少し工夫して回答者に上手く意図が伝わるように更に工夫をしたいと思う。

【委員】

パーセンテージを上げるために質問するというわけではないだろうから、質問の際にどこに重点を置くのかよく検討してほしい。

【事務局】

今御意見いただいたように、「鑑賞しなかった」人の割合含め、現実的にどうなのかという結果もあるので、そこはこちらの方の意図が正しく伝わるようにもう一工夫していきたいと思う。

【委員】

計画を作る時、特に継続の場合は、現在の計画で何を目指してどこまでできて、今どこが課題として残っているということをまず整理してから始まるように思うが、そののところはどうなのか。

つまり、今までの計画は、一定程度の成果があったが、足りない部分はこれだというような総括はどうなっているのか。

【事務局】

現計画が令和4年度からスタートしている計画であり、第1回目懇談会の際に計画初年度の進捗結果について御説明させていただいた。

現計画の3年間の目標値に向かって実施しているところだが、まだ結果が1年目しかないという形なので、3年間の総括は出ていない段階で、次の計画を検討しているところ。

【委員】

2年目の結果はまだ出ていないのか。振り返りの総括がどうなっていくのかが少し気になる。

【事務局】

2年目がまさに今実施している年度であるので、結果は来年度前半にはまとまると思う。

【副座長】

各委員の御意見を拝聴し大変勉強になった。私は施策などの具体的な段階で、現場の立場から意見や考えを述べさせていただければと思う。

【座長】

私が少し気になった点だけ話して次へ行きたいと思う。

こうでなければいけないという答えがあるわけではないが、先ほど「視点」として挙げられていた「人づくり」と「環境づくり」と「地域づくり」について。意図する内容を前段で説明できた方がよい。「人づくり」では、文化の素養に溢れた千葉県民を作ろうとしているのか、文化芸術を伝えていこうとする人材を作ろうとしているのか、それともファシリテーションする人を作ろうとしているのか。

資料を読み込んでいけば後半の16ページなどでわかると思うが、10ページ

や11ページなど、ワードとして最初に出てくる部分でもう少し説明されているといいなと考える。

同じく、「環境づくり」という言葉も、県民が文化芸術と能動的に出会う、あるいは参加するような環境やその仕組みを指していると考えたが、つまりどちらかというところ「仕組み作り」のようなことではないか。

同じく、「地域づくり」は、そのまま受け取ると千葉県のある一部の地域というように捉えてしまう懸念がある。16ページの表などを見ていると、文化芸術の多様性を生かすために、色々な団体や人々を出会わせ、結びつけること・共同させることで新たなプラットフォームを作っていくことであったり、県とNPOの役割分担と書いてあるが、それを分担はしているのだが、同じプラットフォームの中で共同していこうという話ではないかなと考える。地域というよりは、「共同の場づくり」の話かなというように捉えた。

もちろん「地域づくり」という言葉でうまく伝われば問題ないが、言葉だけを見ると、南総だったり東総だったり、県内のエリアの話に捉われることが懸念される。できれば11ページあたりの書きぶりを少し整理していただいて、伝わるようにしていただいた方がよい。

(2) 県民への意識調査について

資料2により事務局から説明し、その後各委員による意見交換を行った。

<意見交換概要>

【委員】

参考資料5が、前回行った調査か。

【事務局】

そのとおり。令和元年度（平成31年度）に行った調査で、この時も3000人を対象に調査している。今回の調査は令和元年度以来である。

【委員】

前回調査の結果を整理したのが、先ほどの鑑賞率75%の話のものか。

【事務局】

そちらは報道広報課で毎年行っている県政世論調査というもので、今回行おうとしている調査とは別である。

県政世論調査は、過去1年間に文化芸術に触れたかどうか、活動したかどうか、環境が整っていると思うかどうかの3つの質問だけになるので、それより

はもう少し掘り下げた調査を行おうと思っている。

【座長】

前回の調査方法を見ると郵送配布になっているが、住民台帳の無作為抽出とするのか。

【事務局】

委託業者が住民台帳の閲覧をできるようにしたうえで、委託業者の方で無作為抽出を行う予定。

【座長】

前回の調査項目と同じ項目にすることで継続的な変化見ていただくことができる。また、前回に縛られず、新たにこういうことを聞いた方が良い、こういうことを聞くべきではないかという話があれば、伺いたい。

【委員】

質問はあまり変えない方が過去との比較ができるため良いとは思いますが、もう少し、自由回答の余地を増やした方が良いのでは。

実際、県政世論調査では文化芸術活動に参加していない方が多かったり、先ほどの鑑賞率も、オンラインの要素が入っていることを踏まえると低く感じるということであったり。文化芸術と個人の距離感がどれくらいなのか、敷居が高いのかなんなのかというところを把握することが課題ではないかと思う。

今、フリーで書くところが最後の「県の施策に対しての御意見」だけになっているが、回答者が思っている「文化芸術」とか、その人と文化芸術の距離感というところが結果的に分かるような質問項目があれば、ヒントが取れるのではないかなという気がした。選択肢の中から選ぶ方法ばかりであると、決め込んだ調査結果になってしまうので。

我々がよくやっている調査だと選択肢の項目もありつつ、フリーで「このことについて何かありますか。」というような自由に回答を書き添えていただく設問もある。回答を集計した際に結構同じキーワードが出てきたりするので、後々参考になることも多い。

【委員】

前回の質問項目と大きく変えないということは正しいと思うが、鑑賞と体験は分けた方が良い。

鑑賞と体験では全然違うと思うので、分けた方がより実情の把握に繋がる

のではないか。

【座長】

大きな構成として、1 が鑑賞で、2 が参加となっている。文化の範囲が広いので、1 の「体験」という言葉が誤解を生んでいるように感じた。例えば、食文化は鑑賞と言われても、見るだけなのかという誤解を生む。質問の際の文章の選び方も再検討が必要。

このアンケートの大きな意図は、1 ではどちらかという鑑賞的なことを、2 では実演として能動的に参加しているかということを知りたいのではないかと聞きたかったのではないかと。

食文化で言うと、「食べること」と「作ること」という切り分けかもしれないが、委員の御指摘のように、回答者がうまく回答できない印象を受けた。

大きな項目で言うと、3 が各地域の伝統芸能のことを聞いて、4 に障害のある方の文化芸術発表について、5 が文化施設について、6 は県が実施する事業等について、という切り分けになっていると思う。

文化施設については認知度、つまり知っているかということと、親和度、つまり行ったことがあるかどうかという二面で設問を設置することがある。これは、北の方に住んでる人は南総まで行かない、知ってはいるが行ったことがないということがクロス集計をすれば出てくるということになる。

ただ、全部で25問程度を予定しているということですが、回答しやすい設問数としてはこれが限界かなと考える。

文化のアンケートは、他のアンケート（経済関係など）よりは比較的回答率が高い。我々も各地で実施しているが、定住率が高い街でやると回答率が高いことが多い。長く住んでいる人が多い街の方が回収率が高くなる傾向がある。それに対して、転出・転入の多い街では、回答率は30パーセントを切るようなこともある。ただ、どこまでいっても50パーセントを超えることはほとんどない。

【委員】

調査において鑑賞と体験が合体しているのはわかりにくい。先ほどの県政世論調査だと鑑賞率は高いが、参加の方ははかなり低い結果となっており、それが問題だという意識だったと思うが、そういう説明であればなおさら分けて聞くことが必要で、なぜそうなっているのか、地域により差はあるのかとかいうことを聞くことになると思う。

令和元年はオンラインについては特に言及せずに載せているのでは。

【事務局】

今回調査では、県政世論調査と同じように、オンラインでの鑑賞・参加も含まれているとわかるようにした状態で調査しようと思っている。

【委員】

そこが回答者にわかってもらえないと、出てきた回答が使えない可能性がある。

回答者に理解してもらおう方法としてよくやるのは、写真等のビジュアル系の資料をつけること。文字でいくら書いていても、急いでいて内容を十分理解せずに回答する方もいるので、ビジュアル資料をつけるとわかりやすいかもしれない。

インターネット調査だとすごくやりやすいが、配布資料だと、カラーでつけるかどうかや、サイズの問題だとかで結構大変だが、どう実施する予定か。

【事務局】

調査資料自体は紙を郵送配布。調査票の表紙にQRコードを掲載し、オンラインでも紙でも回答できる方法を予定。オンラインには紙と同じように質問項目を掲載し、クリック等で回答する。

【委員】

研究者がこういった調査を行う場合、個人の属性に必ず可処分所得の項目を設ける。でないと、論文にはならない。

文化でも何でも可処分所得が鑑賞や参加にかなり大きな影響を与えるので、あったほうがよいが、今回は行政に必要なデータなので、無理して調査する必要もないのかもしれない。ただ、鑑賞と参加は分け、特にオンライン調査であれば、文字で記載するだけだとなかなか難しいので、ビジュアル資料も考える必要があるかもしれない。

【委員】

他の委員と同じ意見ではあるが、学校にも様々なアンケートが来る。

質問者がアンケートをスルーされないように、最初に「大体5分で終わります」とか、「10分あればできます」という目安の時間を見せることで、回答してみようかなという気持ちになることもあるので、そういうことを明記するのも回答率を上げることに役に立つのかもしれないなと思った。

それから、無作為抽出であれば、回答者は文化的に意識が高い方もいれば、そうではない方もいる。調査票をぱっと見た時に、文字ばかりで25問もある

と投げたくなってしまう人もいると思う。そういった時に、先ほど委員が行っていた「見える」ような資料、図示資料というか、いわゆるポンチ絵のようなものが1つあって、こういったことを調べようとしていて、内容が難しくないで協力お願いします。といったようにソフトに入っていくと、回答率も上がるのではないかと思う。

また、基本項目を変える必要はないと思いつつ、5年前と今、何が変わったかと言った時に、コロナには触れなくていいのか。

それがある以前と今で、やはり取り巻く環境が変わったのだとすれば、これからどうするのかということを考える一つの材料となる。

例えば、リモートワークが増えたとか、在宅勤務が増えたとかで、その結果、客足が戻らないという話だったり、今、京葉線の通勤快速の方にまで話は広がっているけれども。そういう視点もあってもいいのかなと思う。

【座長】

前回調査を行っているので、内容を大きく変えないで調査を行うことでその変化が見えるというのも配慮した方がいいかもしれない。

ただ、皆さんが仰っているように、鑑賞（体験）の「体験」という言葉は整理が必要。前回調査の設問1のところを見ると、食文化だとか、自然、科学、産業に関する展示は、鑑賞と活動という分け方をするというのは難しい。そこだけはもう少し丁寧な説明と整理が必要。回答者がどちらにマルをつけてよいのかわからないかもしれない。

よく見ると、参加するのという違いだったら、体験という言葉を使わなくても成立するように考えるので、その辺を見直していただけると良い。

それから、施設の認知度だけではなくて、親和度ということも、どれくらい知られているのか、行ったことはあるのか、親しまれているのかということも顕在化してほしい。千葉県文化会館を知らないと言われるとちょっと悩んでしまうが、刺激にはなると考える。

各委員から出てきた意見も配慮して、調査票の構成を考えていただきたい。

(3) その他

事務局から主旨等を口頭で説明し、その後各委員による意見交換を行った。

【事務局】

前回の第2回目懇談会の際に意見をいただいた「参考人からの意見聴取」について。

次期計画を策定する上で、本県が新たに盛り込んでいかなければいけないこ

とや、本県の特色を生かす新しい分野の人材について、御意見を伺ったところ。

その際、具体的な参考人については本県の伝統工芸品万祝染めの染元である鈴染の名前が上がり、その他、地域性の理解というところで南総地域で活躍されている方、子供の頃から文化芸術に親しむための方策を伺うということで、教育関係者という御意見もいただいた。

今回、他にも意見聴取するような方はいるかどうかを伺いたいところ。

具体的な名前以外にも、分野など、参考人として御意見を伺った方がいいのではないかとすることがもしあれば。

参考人への意見聴取のタイミングとしては、次回の5月の懇談会や9月の懇談会の場で御意見を伺えたらと考えている。

<意見交換概要>

【座長】

前回懇談会で委員の構成を変えるとか、変えなくても、場合によっては必要な時だけに専門性の高い方に来ていただいて意見を聞いたかどうかという話があったが、その時に出た意見がこういう方たちでした。

私も千葉の人脈があるわけではないので、個人名を言われてもその方がどういう方かよくわからないが、選ぶ時には千葉の方たちの御意見を配慮した上で招聘するのがよいだろうと考える。

計画を作る上で、外部の方から第三者的な目線で色々意見を聞くということは良いことだということを申し上げて、こういう話になっている。

今お名前が上がってる方以外でも、こういう方から意見を聞いたかどうかということがあれば、また改めてお名前を挙げていただければよい。

【委員】

専門的な方の御意見を聞くというのは、何人くらいの想定をしているのか。

【事務局】

人数に決まりはない。

本懇談会の委員には、それぞれ専門の知見を持った方々に就任いただいているが、他の分野でも専門的な御意見を聞きたいため。

【委員】

先ほどのアンケート項目も、体験・鑑賞を含めて、自然科学だとか産業だとか、ものすごく多岐に渡っていることを考えると、特定の分野の専門家で固まると、議論が引っ張られてしまう気もする。

音楽関係、美術、あるいは先ほどの伝統工芸もみんな文化なので、その方向性を決めるなり、人数に決まりが無ければ、どの分野の意見が欲しいっていうのを少し明確にすればいいのかなと思う。

【事務局】

確かに、まだ方向性が決まっていない中で、どの方がというのは難しいのかなとは思う。

こういった分野で、こういった方の意見が出れば、方向性などを決めていくために参考となるのではないかとということが、もしこの場であるのであれば御意見いただければ。

【委員】

意見聴取は、芸術に対しての御意見をフリーハンドで伺う感じを想定していたのか、それとも、計画など何かに対しての御意見を想定していたのか。

【事務局】

専門分野の方から、その分野の現状などを伺いたいと考えている。

【委員】

思いつきではあるが、千葉県計画ではあるが、例えば、他県の稼働率がとても高い博物館であったり美術館であったり、そういうところの上に携わっていらっしゃる方に御助言をもらうのもありなのかなと思う。

公共の図書館だけでも、とても良いと評判になっているところもたまに見かけるので、仕掛けというか、工夫というか聞けたらと。

最近稼働率を上げることを常に求められてる中で、どういうものが人々の琴線に触れるのか、どんなことを仕掛けていけばいいのかというのは、やはり成功体験を話していただくのが良いのかもしれない。そうすれば、先ほどのホールの認知度不足の解消にも繋がるのかなとも思う。

【座長】

具体的に思いつく図書館等はあるか

【委員】

新聞で見たが、東京の施設だった。東京の博物館などはお金のかけ方が違うので、参考になるかどうか分からないが。

【事務局】

前回出た意見も踏まえて、次回の会議の際などにも、もう少し方向性を踏まえた上での参考人選出を考えたいと思う。

【座長】

もし、御意見があれば、メール等でお知らせいただければということにしたい。地元の方となると、皆様の協力をいただきたい。

どういう視点でどういうお話を聞くかということもすごく重要だと考えるので、そのことを踏まえてお呼びするのがいいのではないかな。

【事務局】

次期計画に向けて、現計画での総括をした上でやるのが本筋というもっともな御意見を頂戴した。現計画の期間が令和4年度から6年度までの3年間ということで、今まだ中間年で総括ができていない状況。

現計画と次期計画で間を空けないことを考えているため、なかなか総括という作業の難しさがあるが、今回の懇談会には、令和4年度・5年度の取り組みを我々の方でもある程度の総括をした上で、次期計画に向けての議論をまたお願いしたいと考えているため、その点御理解いただけたら。

また、次期計画に対して様々な御意見を頂戴した中で、計画の視点を「人づくり、環境づくり、地域づくり」とし、現計画にこの視点を当てはめた表を16ページに示したが、具体的な柱や施策の展開、主な取り組みというのは今回の御意見等を整理したうえで次回示していきたいと考えている。

その際には、この「視点」の定義付けというものを、我々としては現計画の中で盛り込まれてる要素を今回「視点」で再構成してみたが、今後外に出していくにあたって、視点について明確に説明できるようにした上で、そこに施策がぶら下がっていくような構成にしていけないとわかりづらいものになってしまうのかなと感じたため、その辺踏まえて骨子案を構成していきたい。

委員の方から教育の観点という話があった。「人づくり」の視点の中で、どんな人なのかというところをかなり幅広に入れてしまっていたので、逆に少し見えづらくなってしまったのかなとも思う。

人づくり、そのまま読めばまさに教育でもあるという風に思うので、教育の分野、図工まで入り込めるかというのはなかなか難しいかもしれないが、そういった図工的なところ、子供たちが文化芸術に触れるという中で、この図工っていう分野、大事な分野だと思うので、そういった目線も持ってやっていきたい。

アンケート項目についても、前回行ったアンケートから、その後の色々な状

況変化というものも踏まえて、質問項目も整理していきたいし、我々としては、サンプルは万遍ない世代・地域から取れるような工夫をしていきたいと思う。また、この調査がきちんとしたバックデータとなって、それを元に施策を組み立てられるようになるよう整理をしていきたい。

また参考人の話だが、前回、懇談会にこういった分野の方を追加したらどうかという相談をさせていただき、その流れで、本日また御相談させていただいたが、こちらの方で次期計画の骨子案を詰めていく中で、もう少し内部で議論した上で、また委員の皆様にも御相談したいと思う。

もし、こういった人の意見を聞いたら面白いというような御提案を頂戴できればと思うので、その点、少し頭の片隅に置いていただければ。

来年度の施策についても、来週ぐらいに発表予定だが、文化芸術分野については力を入れている分野でもあるため、我々としては予算的には毎年少しずつ頑張ってきている。次期計画に向けてまずはこの現計画で掲げた様々な指標がクリアできるように頑張っていきたいと思うので、引き続き様々な御助言、御支援いただけるようお願いする。